

【令和4年度 授業改善推進プラン】

板橋区立高島第五小学校

【理科】全国学力調査結果を受けて

<p>■児童の状況</p>	<p>＜令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果から＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科全17問中、15問が全国（公立）正答率よりも低い割合であった。そのうち、10ポイント以上低い問題は9問あり、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」どの分野にも見られた。 ・10ポイント以上低い問題の内容は、以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ①結果を基に、新たに実験方法を見直すことができる。 ②問題を解決するために、どのような情報（結果）が必要かを考えることができる。 ③実験に必要な器具の名称や理科の言葉が定着している。 ④資料や事象から学習の問いを立てることができる。 ⑤実験結果から問いに対して考察をすることができる。 ⑥学習した知識・技能を日常生活に活用することができる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の①、②、⑤については、問いに対して、児童が根拠をもとに予想を立てたり、予想を確かめるための実験方法を考えたり、どのような結果や考察であれば予想が確かめられるかといった、問題解決に必要な思考をする時間が不十分なのではないかと考えられる。 ・③については、児童の定着を図るため、学習での結果や考察、振り返り、既習事項の確認など、繰り返し活用する機会が不十分ではないかと考えられる。 ・④については、児童が主体的に学習の問いを立てるために、単元導入時に児童が学習内容に関する予備知識や経験を得るために、理科的事象を経験する活動や体験、共有する時間が不十分なのではないかと考えられる。 ・⑥については、学習後の振り返りや学習を活用したものづくりなどの活動を通して、理科の学習内容を児童の日常生活に還元する機会が不十分なのではないかと考えられる。

■授業改善に
向けての
具体的な方策

- ・児童が理科の見方、考え方を主体的に働かせようとするための教材を提示したり、体験をしたりする活動を十分に確保できるようにする。また、それらの活動で気付いたことや疑問に思ったことを表現し、交流できるようにする。
- ・問題解決学習に必要な思考力、判断力、表現力の育成を図るための授業づくりを推進していく。
- ・教科書を活用し、理科の知識や技能を全体で確かめたり、繰り返し活用したりできる機会を積極的に設けるようにする。
- ・学習の終末に理科の言葉や事象を活用しながら振り返りをしたり、ものづくりなどの活動をしたりして、児童が学習したことを日常生活へつなげられるようにしていく。